

発表者：Dr. I.Myagmarjav（モンゴル生命科学大学）

発表テーマ：「ドローン技術を用いた小麦収量の予測」

キーワード：

活動目標：世界的な発展の傾向に伴い、モンゴルではドローン技術を実装するための科学研究が緊急に必要とされている。先進国では、ドローン技術は以下のような方法で作物の生産に使用されている。

1. 害虫、病気、雑草の特定
2. 早期検出による農薬の使用・散布の最適化
3. 栄養不足の検出による土壌の肥沃度に関するデータを提供、施肥を改善
4. 土地を生産状態に維持するか、土地を撤去するか、作物のローテーション等土地管理に関する意思決定の支援
5. 植物を数え、個体数や間隔の問題を特定
6. 作物の収穫量を計算
7. 水ストレスが疑われる領域の検出による灌漑を測定、制御。その後、マルチスペクトルデータに基づき、排水システムや水路設置等の改善を行うことが可能となる。

活動内容：トubb県ボルヌール郡にあるモンゴル生命科学大学のナルトセンターでは、以下の分野で研究が行われている。この研究の目的は、人的能力を高め、研究における協力を促進することである。

- 作物の生産性推定
- 病気と害虫の研究
- 雑草の分析
- 土壌水分の評価

活動成果：山形大学と連携し、1名の博士研究が進行中

協力案：大学、研究機関、民間団体などと連携し、農業分野におけるドローン技術の開発・応用を推進し、特に農林業などの分野におけるドローン技術の応用に関する知識イノベーションを推進し、当該分野の企業へのコンサルティングサービス提供を目指す。